

皆さまの医療費の状況をお知らせします！



共済組合では、「データヘルス計画」および「医療費適正化対策事業」の一環として、令和2年度および令和3年8月分のレセプト（診療報酬明細書）をもとに医療費の統計を行いました。

どのような病気で医療機関にかかっているのか、1人当たりどれくらいの医療費が使われているのか、年齢によってどのような疾病が多いのかなどの目安になります。

なお、組合員の皆さまには、年2回の医療費通知を行っております。日頃から医療費への関心を持っていただくことが、皆さまの健康と健全な医療保険制度の運営につながります。

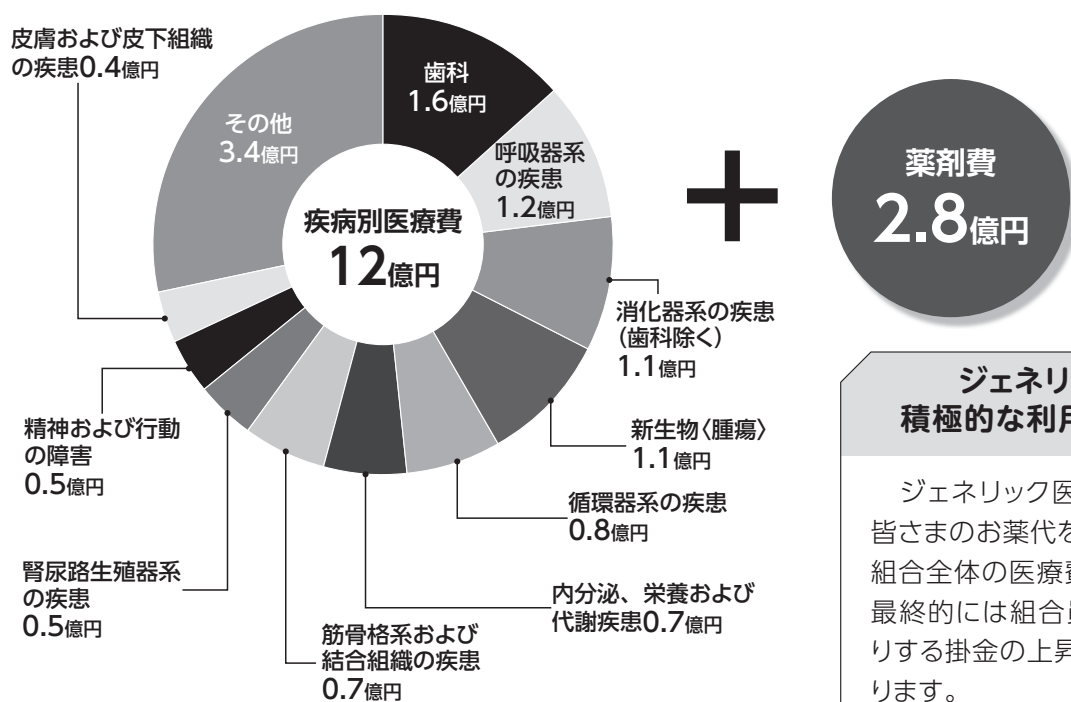
医療費1位は歯科疾患 !!

令和3年8月の医療費に注目してみました。1カ月の医療費を疾病分類別にみると、「歯科疾患」が全体の16%を占め1位となっています。このグラフから、生活習慣を見直すことで予防可能な疾病が上位を占めていることがわかります。

また、薬剤費は昨年よりも増加傾向にあり、約2.8億円となっています。この薬剤費のうちジェネリック医薬品の利用は49%程度です。

早期発見、重症化予防のために健康診断は定期的に受けましょう。健康診断で異常が見つかった場合は、放置せず必ず医療機関を受診しましょう。

令和3年8月の疾病分類別医療費と薬剤費



ジェネリック医薬品の積極的な利用をお願いします！

ジェネリック医薬品に切り替えると、皆さまのお薬代を減らすとともに、共済組合全体の医療費を抑えることができ、最終的には組合員の皆さまからお預かりする掛金の上昇を抑えることにつながります。

歯科健診に行こう!

初期症状の少ない歯周病やむし歯は、痛みや出血などの自覚症状が出るころにはかなり悪化していることがあります。たとえ症状が出ていなくても、定期的に歯科医師と歯科衛生士にチェックをしてもらえば早期の段階で治療することができます。家族みんなで、かかりつけ歯科医を決めて通うようにしましょう。

かかりつけ歯科医を選ぶポイント

1 予防に力を入れている

歯磨き指導、歯周病の説明やチェックなどにも熱心な歯科医を選びましょう。

2 説明が丁寧

治療内容について十分な説明をしてくれる歯科医なら安心です。

3 話をよく聞いてくれる

気になることをじっくり聞いてくれるかどうかも大切です。

4 すぐに抜こうとしない

現在は歯や神経をできるだけ残す治療法が主流です。

5 全身の健康状態にも留意している

口の中の症状だけでなく、内科的な症状も把握してくれる歯科医を選びましょう。

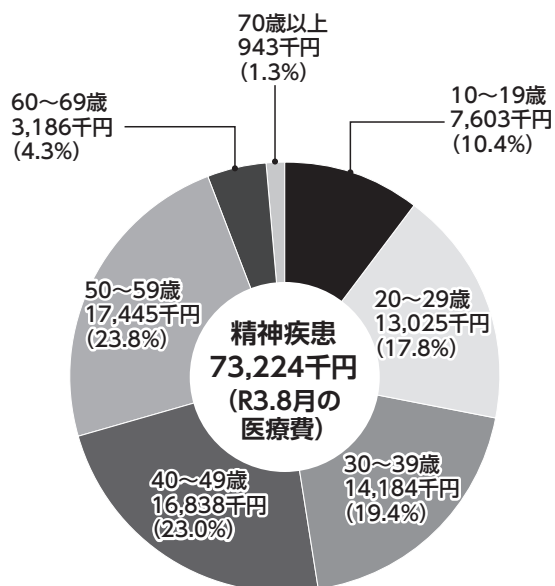
定期的に
歯科健診&清掃を
受けましょう!



精神疾患の受診状況をクローズアップ!

令和3年8月の精神疾患の医療費について、年齢階層別でランキングすると、下記のグラフの結果となり、罹患者数は30代～50代のいわゆる働き盛りの世代が多くを占めています。

精神疾患の年齢階層別の医療費と構成割合



精神疾患の1人当たりの医療費

年齢区分	罹患者数(件)	1人当たり医療費(円)
10～14歳	165	20,949
15～19歳	143	28,997
20～24歳	216	20,216
25～29歳	299	28,959
30～34歳	358	22,306
35～39歳	315	19,678
40～44歳	345	18,686
45～49歳	478	21,738
50～54歳	497	21,270
55～59歳	311	22,100
60～64歳	120	24,524
65～69歳	14	17,356
70歳以上	9	145,529

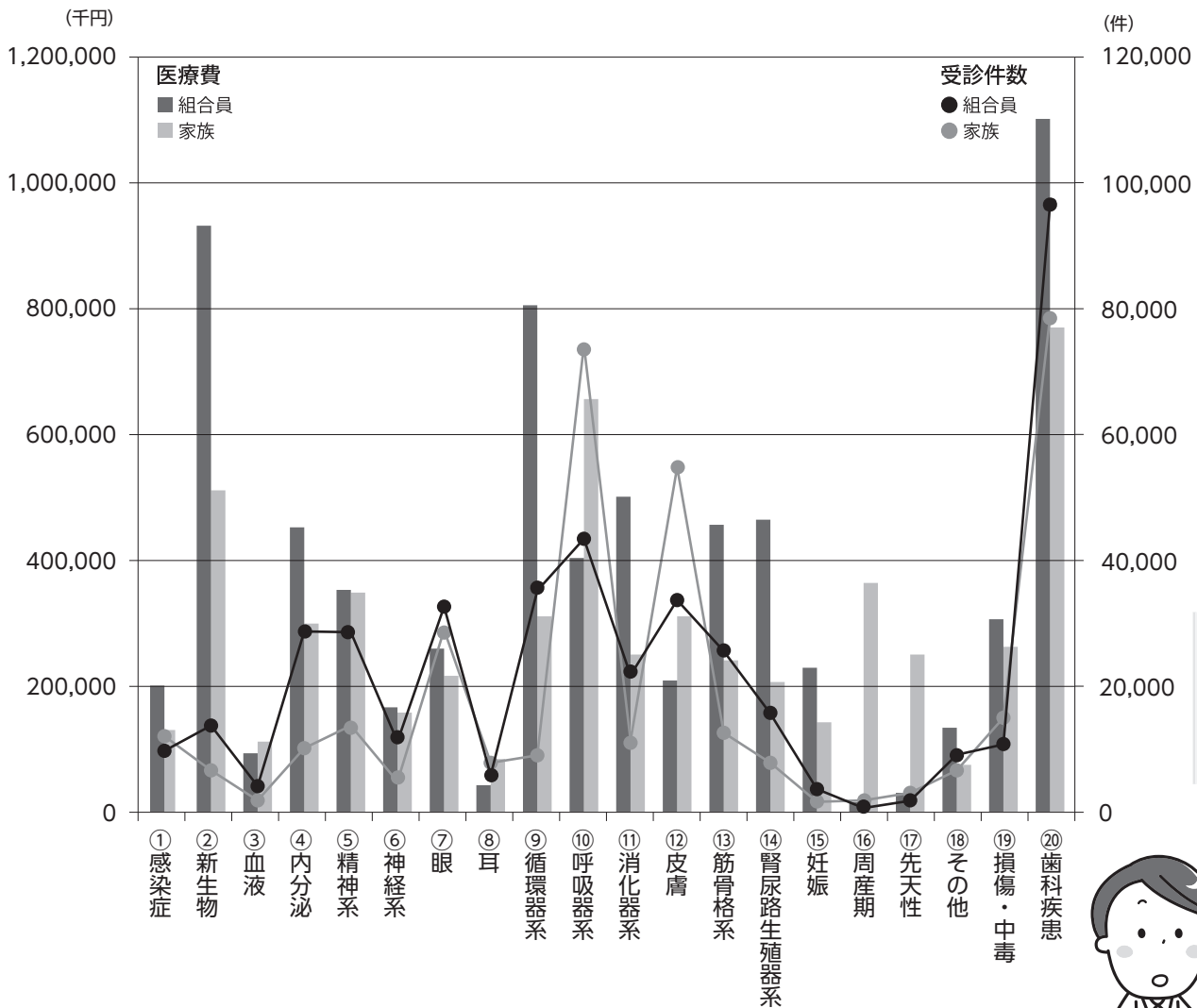
メンタル不調の原因は様々ですが、近年は新型コロナウイルス感染に対する不安や行動変容に伴うストレスも多く生じているように見受けられます。

規則正しい生活を心がけて、感染対策をしながら無理のない範囲で友人や家族とコミュニケーションをとったり、気分転換をしたりしてなるべくストレスをためないようにしたいですね。

令和2年度の医療費と件数を疾病分類別にみると

組合員と家族を合わせた合計の件数は「歯科疾患」と「呼吸器系の疾患」が顕著に多く、医療費では「歯科疾患」がトップで、「新生物」、「循環器系の疾患」、「呼吸器系の疾患」と続きます。

組合員でみると「歯科疾患」、「新生物」の医療費が多いことがわかります。家族では「歯科疾患」の医療費が最も多い金額となっており、続いて「呼吸器系の疾患」が多くなっています。「歯科疾患」は、組合員と家族ともに件数も医療費も最多となっています。



さらに年齢階層別に詳しく分析すると...



項目	主な傷病名
① 感染症	結核、ウイルス肝炎
② 新生物	腫瘍、白血病、がん
③ 血液	貧血
④ 内分泌	糖尿病、脂質異常症
⑤ 精神系	うつ病、統合失調症
⑥ 神経系	パーキンソン病、てんかん
⑦ 眼	結膜炎、白内障
⑧ 耳	外耳炎、メニエール病
⑨ 循環器系	高血圧症、脳梗塞
⑩ 呼吸器系	かぜ、アレルギー性鼻炎

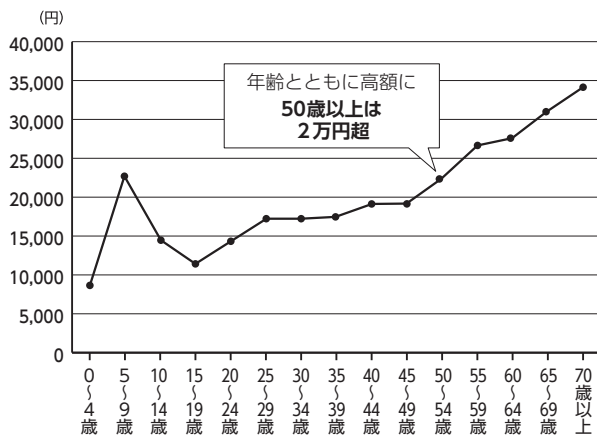
項目	主な傷病名
⑪ 消化器系	胃炎、肝炎
⑫ 皮膚	湿疹、にきび
⑬ 筋骨格系	関節症、腰痛
⑭ 腎尿路生殖器系	腎不全、尿路結石症
⑮ 妊娠	流産、切迫早産
⑯ 周産期	胎児発育の障害
⑰ 先天性	染色体異常
⑱ その他	ほかに分類されないもの
⑲ 損傷・中毒	骨折、やけど
⑳ 歯科疾患	むし歯、歯周病

1人当たりの医療費を疾病分類別にみると

$$\text{1人当たりの医療費} = \frac{\text{疾病分類ごとの総医療費}}{\text{平均組合員数} + \text{平均被扶養者数}}$$

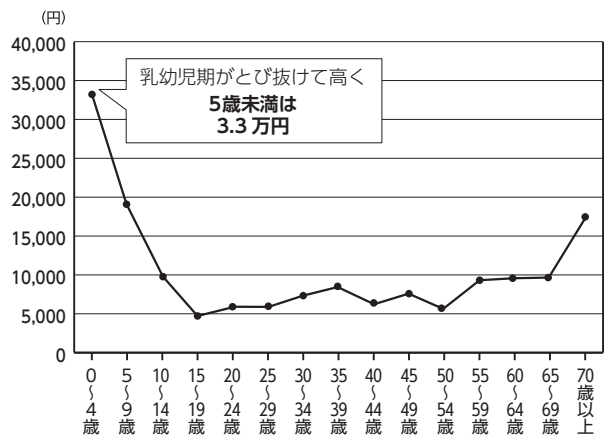
歯科疾患

むし歯、歯周病など歯の疾患では、5～9歳が2万2,472円と高く、また、15歳以降は年齢を重ねるごとに高くなる傾向にあります。



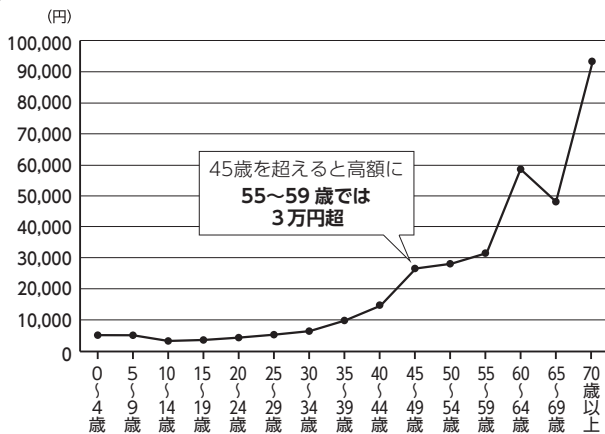
呼吸器系

かぜ、アレルギー性鼻炎、喘息等を含む呼吸器系の疾患では0～9歳までが全年齢層の中でも特に高く、また、55歳以上からは年齢とともに増加していく傾向にあります。



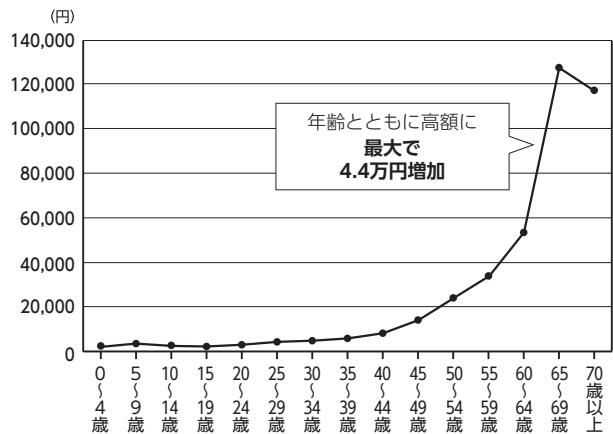
新生物

乳がん、胃がん、肺がんなど主にがんの疾患で、30歳からは年齢とともに徐々に高くなり、60～64歳は5.8万円、70歳以上では9.2万円と、とび抜けて高くなります。



循環器系

循環器系の疾患では狭心症などを含む心疾患や脳内出血などの脳疾患が多くみられ、30歳まではほぼ横ばいですが、35歳以上からは年齢とともに増加していく傾向にあります。



これまでの統計・分析から、30歳から年齢を重ねるごとに高血圧やがんなどの生活習慣病関連の医療費が多くかかっていくことがわかります。一方で、むし歯やかぜなど普段からかかりやすい疾患は乳幼児期や50歳以上の方に医療費が高くなっています。これら身近な病気は、毎日の歯磨きやうがい、手洗いなどで予防することができます。

生活習慣全般から起こる様々な体のトラブルが原因の疾患が30歳を境に受診者数が増加しており、医療費も高額になります。年に一度は必ず健診を受け、食事や飲酒など日頃の生活習慣を見直し、禁煙や運動を意識的に日常に取り入れるなど、日々のちょっとした行動を習慣づけて家族みんなで健康的な暮らしを実現しましょう。

お問い合わせ先 保険課 ☎048-822-3306